

## 第3回 第4期鳥取市中心市街地活性化基本計画検討委員会 議事録

日時 令和4年9月30日(金) 10:00~12:00

場所 鳥取市役所本庁舎6階 第3~6会議室

出席委員 倉持委員長、細江副委員長、石丸委員、若山委員、真嶋委員、中村委員、田中委員、陶山委員、木谷委員、渡世委員、吉村委員、赤山委員、入江委員、清水委員  
(陶山委員、清水委員はオンライン出席)

### 1. 開 会

### 2. 倉持委員長あいさつ

- ・ 本日の素案はパブリックコメント前の段階に向かっている。まだ皆様のご意見を反映することは可能。ぜひとも多くのご意見をいただきたい。

### 3. 協 議

#### 1) 第2回委員会議事概要

- ・ 第2回委員会の議事録の内容確認

#### 2) 第4期鳥取市中心市街地活性化基本計画(案)について

- ・ 事務局から説明

(事務局) 前回の委員会からわずか1ヵ月の間でこのボリュームの資料作成にあたったこともあり、誤字脱字等が見受けられたかと思うが、市民の皆様公表する前にはあらためて事務局で精査する。本日は、細部には目を瞑っていただき、大局的な視点から意見をいただきたい。

(委員) ゾーンのネーミングが「まち歩き推進ゾーン」や「まちみせ魅力創出ゾーン」等、わかりやすくなった。できれば、「鳥取城跡観光推進ゾーン」や「鳥取民藝観光推進ゾーン」も、少し柔らかな表現になるとよいが、これをひらがなにしても逆にわかりにくくなりそうなので、このままでよい。ただ、「まち歩き推進ゾーン」など、ゾーンの示すエリアがわかりにくい部分がある。「鳥取城跡観光推進ゾーン」の名称(吹き出し)の色はゾーン名と同じ紫になっているが、ゾーンの名称の色とそのエリアの色が対応しておらずわかりにくい箇所がある。

(事務局) ゾーンの名称とエリアの色が対応するよう修正する。「まちみせ魅力創出ゾーン」や「まち歩き推進ゾーン」は、範囲がどうしても重なってしまう。吹き出しの色でわかりやすく表現できるよう修正したい。

(委員) 中心市街地の活性はこのゾーン間の相互連携にあると考えている。各ゾーンが分断されるのではなく、どう関連しているかが、まちを活かすと考え。しかしながら、その連携の具体的なストーリーが見えない。それぞれのゾーンの戦略や役割はわかるが、その役割がそれぞれどう繋がるのか。例えば、ゾーンごとに責任者がいて、責任者同士が密に情報交換しながら全体を連携させる等、具体的な方針があればわかりやすい。生活者と観光客のどちらなのか、移動手段が徒歩・公共交通機関・自家用車のうちのどれなのかによって動線も変わってくる。それぞれの目線で各ゾーンがどう関係しているのかがわかる具体的な方針があるとよい。

- (事務局) ゾーン間の連携は重要な視点。計画に掲げる事業は庁内の様々な課が所管している。市民からすると、確かに連携がとれていないように見えるかもしれない。庁内では「鳥取市中心市街地再生本部」の下に幹事会と部会を設け、部署間の連絡を取りながら事業を推進している。事業の一覧を見ても、そのあたりはわかりにくいと思うので、修正できる部分での記述を考えてみたい。
- (委員) 一つひとつの事業に市民の声はどのように反映されているのか。具体的に、どのような手法で市民の意見を把握しているのか。  
ゾーンの図について、文化観光施設の色にゾーンの色が重なることによって、違う色に見えるため修正してほしい。また、大榎町にある商業施設は何か。
- (事務局) 大工町には、11月オープン予定のドラッグストアが現在建設中である。  
市民からの意見収集については、計画区域の自治会との意見交換会を予定している。また、10月中旬から市民政策コメント（パブリックコメント）を3週間実施する。本計画を策定する過程で実施したアンケート調査においても意見を収集し、計画に反映している。さらに、コロナ禍により実施できていなかった「地域づくり懇談会」を活用し、計画の初年度に各自治会へ出向き説明することも予定している。今後も、様々な媒体を活用して意見をいただく機会を作りたい。
- (委員) そうしたことは承知の上だが、計画書としては整った形になっていても、踏み込んだ良さが出てきていない。その理由として、市民から意見を募集しても、なかなか意見が出てこないという大きな問題があるのでは。意見を出してもらうための工夫が必要。
- (委員長) 同じような感想を持っている。前期計画を策定してから、中心市街地が劇的に賑やかになった印象はない。そのことは、アンケート調査結果からも裏付けられているが、同時に、難しいことでもある。この計画は、国から補助金をいただいたり、様々な事業を位置づけたりするためのツールである。計画策定の過程では、事業の組み立てやハード面が主な議論になり、それが終わると気持ちが冷めてしまう。これから計画が動き始めたときに、どういう議論に持って行くかという場の設定にも工夫が必要。しかしながら、そのことは計画書に求められる記載事項とは相性の悪い活動面の話になる。ご指摘の重要性は理解するが、計画とは別次元で議論する機会があればよいと思う。
- (事務局) 平成30年4月に中核市へ移行したことや当時の市長の方針等を踏まえ、前期計画の事業の一つに鳥取駅周辺の再生が位置づけられたことを端緒として、本年10月から始まる駅南地区でのにぎわい形成等の新たな事業が展開されている。第4期計画においても同様の動きが出てくるかはわからないが、そのための行政としての仕掛けが必要と考えている。城跡側ではそうした動きもみられ、それを本計画にどのようにリンクさせ動かしていくかが課題。中心市街地整備課が音頭を取って動く必要があると思っている。
- (委員) アンケート調査結果によると、「中心市街地活性化の満足度（今後の重要度）」で重要とされているのは「自動車で行きやすい」と「公共交通機関の利便性」である。中心市街地への来訪者に公共交通機関を利用して巡回してもらうことが重要。本計画では、そのことへの対策があまり見受けられないように感じられた。民間の有料駐車場で駐車台数は足りているということだが、それを活用してもらうための周知や来訪者への対策が必要。

- (事務局) 第1回委員会での説明の繰り返しになるが、行政として新たに駐車場を整備することは極めて困難。整備の可能性がある場所としては、鳥取市役所旧本庁舎跡地等であるが、中心市街地には約2千台が駐車できる時間貸し駐車場が確保されている。その点を十分にPRできていない。これは、前期計画よりも前からの課題である。関係各課と連携して、駐車場の位置やくる梨の運行状況をリンクさせたWebサイトを作成したこともあるが、運用や引き継ぎがうまくいかず継続できなくなったという実態がある。今後も周知を図ることが必要。
- (委員) 図1-17の「空き地、駐車場の分布」の3つの図は、時系列で並べているということか。その上の図1-16によると、月極駐車場が時間貸し駐車場に比べて圧倒的に多くなっている。時間貸し駐車場は駅周辺には比較的多いが、それ以外ではどうなのか。現状をどこまで把握し分析できているのか。駐車場の問題は非常に重要であるにもかかわらず、あまり分析できていないように思われる。何をもち、「2千台の駐車場が確保できている」と言っているのかわからない。そのことの説明も資料として必要ではないか。
- (事務局) 2千台という数値はデータとして持っているものではない。確かに、時間貸し駐車場の面積は月極駐車場に比べて少ないが、箇所数は少なくはない。イオン鳥取店の駐車場も含め、駅周辺にはかなりの台数がある。城跡周辺に少ないことについては、とりぎん文化会館の駐車場や、土日限定ではあるものの鳥取県庁駐車場が開放されることを踏まえると一定の台数が確保されていると考える。城跡周辺には土日に開放される無料駐車場があるため、民間事業者が参入しにくいという意見を聞いたこともある。
- (委員) 中心市街地の居住人口や交流人口を増やすため、空き家のリノベーション等への補助があるが、駐車場に対しても何か補助はないのか。駐車場の問題は消費者にとって大きな問題。税の優遇措置等も考える必要があるのでは。
- (事務局) 「駐車場が無いと客が来ない」といった商店街からの意見を踏まえ、平成17年～18年頃に、駐車場1か所3台以上の整備につき200万円を補助する制度を設けたが、活用されなかった。そういった意見が本当に多いのであれば制度化をすべきものとする。問題意識は感じており、県とともに検討を進めているところである。
- (委員) 時代も変化している。城跡周辺への駐車場のニーズはある。ぜひ改めて検討してほしい。
- (委員) 駐車場の話が出たので、バスの駐車場に関して話したい。境港市(の水木しげるロード周辺)は、人が溢れるほど賑わっている。自家用車で移動すると、見たいところだけ見てすぐに次の場所へ移動してしまうが、観光バスで移動する場合は、駐車場に停めて滞在・周遊・回遊することになる。観光バスでは滞在時間が決まっており、隙間の時間ができる。その時間をつぶすために、まち歩きをする。それが買い物に繋がる。本市の中心市街地でまち歩きをしてみようにあたり、観光バスという手段を考えると駐車する場所がないため難しい。駐車場対策の話が出たのであれば、観光バスの駐車場確保についても検討してほしい。
- (事務局) まちなかに観光バスの駐車場を確保することは積年の課題となっている。現在、駅南に2～3台の置き場所がある程度である。城跡観光が本格化してくると、そういった意見が出てくると思われる。このことは観光部局が主体となって検討することになるが、どの場所にどう作るのかは自家用車の駐車場対策と一体で取り組むべきこ

とと考えている。引き続き検討したい。

先ほどの2千台の根拠として、市職員が現地踏査した情報をもとに、現時点の駐車場ごとの台数をまとめた一覧表を手元に配布している。これによると、中心市街地の時間貸し駐車場の台数は合計1,837台となっている。参考にさせていただきたい。

(委員)

ゾーン設定について、「駅南北の回遊性向上」のためどのように取り組んでいくつもりなのかお聞きしたい。例えば、駅前をスムーズに移動できるよう横断歩道を整備してほしい。それが難しければ地下道でもよいと以前から発言しているが、なかなか進展しない。

また、子育て世代の45歳未満の若年層の居住人口を増やすために、補助金等の具体的な施策があれば伺いたい。

(事務局)

駅南北の回遊性向上策については、鳥取駅周辺再生基本構想を踏まえると、城跡の観光資源の掘り起こしが重要になるが、駅と城跡との間に話題性のあるものをいかに仕掛けていくかが重要になる。その一つとして、鳥取市役所旧本庁舎跡地にどのようなコンテンツを持ってくるかが大きな柱になる。また、パレットとっとりや真教寺公園といった既存スポットに、行ってみたいと思える仕掛けを商業者の皆様とともに検討していかないといけない。駅と城跡の間も楽しめるように、ソフト・ハードの両面で、まち歩きのできる環境を作りたい。

若年層の定住対策の補助制度としては、空き家改修支援事業等がある。事業一覧表にあるとおり、本計画では、「まちなか暮らし」に対応する事業をかなり多く用意している。その中でも特に若者をターゲットにしており、中心市街地の魅力を人気YouTuberに協力してもらいSNSで発信する等の取組を推進している。

(委員)

リノベーションの補助だけではなく、子育て世代への支援が最も重要だと思うので、ぜひ検討ほしい。

駅前の横断歩道の件は進展がないのか。

(事務局)

これまでも説明したとおりであるが、鳥取駅周辺再生基本構想の策定時に、権利者である鳥取県、鳥取県警察本部をはじめとする委員会で議論がなされている。本委員会にも当時のメンバーがいらっしゃるが、道路に線を引く権限を持っているのは県警である。単純に横断歩道の線だけ引けばよいというものではなく、交差点の改良工事が必要になる。当該箇所は県道なので鳥取県が改良工事を行うことになる。また、交通量調査の結果、鳥取西道路の開通により中心市街地を通過して鳥取駅前に来る車両が増加し渋滞が発生しているためということであった。そのためまずは、駅周辺の賑わい創出を推進し、そこで交通安全のためには横断歩道が必要であると理解してもらえよう、引き続き取り組んでいきたい。

(委員)

若い人を含めて、まちなかの居住者を増やしていかなければならない。ゾーニング案をみると、各ゾーンが重なる部分が多い。事業を行う際は、ゾーンに縛られずにゾーン間で連携しながら柔軟に取り組んでほしい。

「まち歩き推進ゾーン」は範囲が広く、駅から城跡まで続いている。駅から城跡まで歩いてもらえるような仕掛けは、これからのまちづくりの基本になると思う。互いに知恵を出しながら、協力して進めなければならない。

先ほどの観光バスの駐車場のことに関連して、以前、ロータリークラブの会合でとりぎん文化会館を使用したとき、観光バス10数台分をとりぎん文化会館の駐車場に停めることができなかった。観光バスの駐車場がないまちというのは、観光誘客

面でかなりネックになると思う。「まち歩き」だけでなく「まちみせ」にも繋がることであり、他のゾーンにも影響するため、検討をお願いしたい。

(事務局) ゾーンは目安として設定しているものである。起こり得る事象には適切に対応し推進していきたい。

(委員) 「市道弥生橋通り整備事業」は、山白川の部分も対象地域に含まれているか。弥生橋と市役所本庁舎跡地との間には歩道があり、改修できるスペースが十分にあると思うが、山白川が通っている部分は歩道を整備することができない。住民の要望としては、当該箇所を暗渠として整備してほしいとのことである。

(事務局) 山白川は県管理河川であるため暗渠にはできないという結論になっている。山白川沿いの区間へのガードレール整備を進めているが完了していない。当該方法により安全対策を行うしかないと考えている。

(委員) 転落事故が発生しないよう対策を講じていただきたい。

「市道永楽通り整備事業」の事業期間は令和5年度から7年度ということだが、地元では大きな課題となっている。早期実現をお願いしたい。

(事務局) 当該事業の担当課に確認しなければならないが、警察と協議しながら「ゾーン30」としての整備を考えていると思われる。

(委員) 中心市街地におけるフリーWi-Fi環境の整備を進めても中心市街地への誘客には直接的には繋がらないのでは。例えば、店先に掲示したQRコードを読み込むと明治や大正時代のまち並みが見られる等のAR(拡張現実)やIR(接続現実)、スタンプラリーのような回遊性を促進する事業があったときに初めて、フリーWi-Fiがあると来街者の満足度が高まるのではないかと思う。フリーWi-Fiはそういった付加価値的な要素ではないか。p.117の文言としては「回遊性促進のため」ではなく「インターネットを利用した回遊性促進事業のため」というようにした方が良い。

(事務局) ご指摘を踏まえ、修正すべきところは修正したい。

まちなかフリーWi-Fi事業は駅北口では完了しており、南口は整備中である。駅周辺では繋がるようにしたいと考えている。主にインバウンドをターゲットとした施策であったが、コロナ禍によりあまり活用されていない。コロナ禍の収束後はしっかりとPRをしていきたい。また、バード・ハットでも利用できるようになっており、城跡周辺での整備も予定している。二核での整備は令和4年度中に完了する見込みである。それをどのような切り口でまちなかに広げていくかが課題である。

(委員) 若年層のまちなか暮らし促進のため、不便を便利にしてもまちなかの魅力創出には繋がらないと思う。大きな魅力があれば、多少不便でも我慢できることもある。何かこだわることのできる魅力があれば、そこに住んで遠くまで買い物に出かけることも苦ではない。若年層を引き付ける魅力の例として、「三ツ星マーケット」の取組がある。それを発展させて、市営のマルシェやフリーマーケットのようなものが「まちなか推進ゾーン」の中心にあればよい。若年層はメルカリを利用してリサイクルに取り組む気持ちはあるため、住民同士で要るものと要らないものを交換できたりするとよいのでは。町内会組織の繋がりが希薄になる中、住民同士の交流の場を作ること、まちなか暮らしの魅力になる。町内会や商店街の活性化も重要であるが、住民同士をバックアップするような取組があれば、ここに住みたいと思うきっかけになり得ると思う。

(事務局) ある事業者から、鳥取市役所旧本庁舎跡地で定期的にマルシェを開きたいという提

案を既にいただいている。そういった場があれば出店したい人は潜在的にいると思う。出店しやすい環境整備が重要。位置的にもちょうど中心市街地の真ん中のあたりになるため、良い取組になることを期待している。

(委員) 駅前のマルシェには、城跡周辺からウォーキングをしてその帰りに立ち寄る人も増えている。城跡周辺が観光で盛り上がっている影響もあると思う。周辺の商店街で何か買い物をしたついでに来たのか聞いたところ、駅前のマルシェに直行で来たという人も多々あった。商店街にも魅力のある憩いの場・人・モノがあれば、さらに人が集まると思う。回遊が生まれる期待を感じているので、魅力ある仕掛けを積極的に発信していくとよい。

(委員長) まちなかを歩いていると、信号機でいちいち動きを止められてしまう。まちなかの通りは無数の信号機があり、歩行者としては迎え入れられている感覚よりもむしろ疎外感を持ってしまう。まち歩き推進ゾーンとして打ち出すのであれば、何か歩行者が迎えられている雰囲気を出していく取組も必要と考える。

(事務局) 信号機は警察の管轄なので、簡単に聞いてもらえるというものではないと思われる。歩行者も様々な目的を持っている。二軸ではアーケードが整備され歩きやすい環境が整っている。どちらかと言えば、魅力創出が重要ではないかと思われる。むしろ、信号機の無い通りで何か取組ができないかと考える。

(委員長) 城跡周辺には景観計画による制限はかかっているのか。城跡だけではなく、周辺の通り一帯が整備され、歴史が感じられるようにするのであれば、観光地としての魅力は向上するかもしれないが、住民にとっては様々な制約がかかってくる。事務局としては、観光客に来てもらい、商業的な賑わいや魅力を生み出したいという思いがあると思う。商業者が参入したいという流れになったときに、どうマネジメントしていくのか、まるにわのような民間企業が関わっていくのか等、想定があれば聞かせてほしい。現時点で想定が無ければ、ソフト面での検討を事業として組み込んでおくのもよいのでは。

(事務局) 景観計画では城跡周辺は重点地区として位置づけられており、色味の部分で制限がかかっている。

城跡周辺の観光については、今後、基本計画を策定して推進すると観光課から聞いている。観光地域づくり法人（DMO）が先行して取り組んでおり、ソフト面で本格的に動き始める段階に来たと感じている。駐車場と同様の理由で、城跡周辺に店舗を出店するにも場所がないため苦慮していると聞いている。この問題に対しどのように対応するかが次の大きな課題である。

(委員) 景観計画では城跡周辺のエリアが決まっていて、屋根の色や勾配等に制限がかかっている。建築物の高さにも若干の制限があるが、そこまで厳しいものではなく、法規制のないものもある。

前期計画から大きく方針が変わるものではないため、前回と同じテーマでもよいと思うが、本計画では「若者を中心としたまちなか居住」が強く打ち出されている。その項目が前期計画と比べ前に据えられていることもあり、まちなか暮らしに関する「住みやすい・暮らしやすい」といった言葉もテーマに盛り込んでよいのでは。一方、テーマがあまり長くなるのもどうかとも思うので、感想として受け取っていただきたい。

(事務局) テーマについては、パブリックコメントでも同様の意見が出るかもしれない。その

結果等も踏まえて、変更するかどうかを検討したい。

#### 4. 今後のスケジュールについて

(事務局) 本日の意見をもとに修正すべき点を修正し、10月中旬から11月の初めの約3週間に渡りパブリックコメントを実施する。本日いただいた意見のうち回答できなかった意見については、パブリックコメントで得られた意見とあわせて正式に回答する。また、来週に開催される中心市街地活性化協議会でも意見をいただくことになっている。さらに、中心市街地の町内会の皆様や商店街の皆様にも直接意見をいただきたいと考えているが、コロナ禍により難しい状況である。何らかの形で意見をいただけるようにしたい。

いただいた意見を総合的に勘案して計画書の修正を行い、11月中に第4回鳥取市中心市街地活性化基本計画検討委員会を開催し、最終的な計画としてまとめたい。

#### 5. 閉 会

以上